

JAMA NEWS NO. 56

The Japanese Association of Management Accounting

日本管理会計学会 〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター (株)国際文献社内 日本管理会計学会事務局

会長就任、3年目を迎えて

会長 東京国際大学 崎 章浩

2023年4月に会長に就任し、はや2年が過ぎようとしています。

就任にあたって、社会に開かれた学会をモットーに、社会への貢献、学会の発展、会員の先生方の研究活動の充実、さらには産学連携による地域経済の発展への貢献を目標に掲げ、学会の運営に携わってきました。お蔭さまで、執行部の先生方をはじめ、常務理事、理事の先生方、監事の先生方、参事の先生方のご協力のもと、会員の先生方のご支援を得て、順調に歩んでくることができました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

1年目は、管理会計の実務への普及と定着を目指して(一社)日本記念日協会に「管理会計の日」を登録し「学会ロゴマーク」を作成しました。また、現状に鑑みて「学会誌編集委員会運営規程」「学会賞規程」等の規程を改正しました。ご協力いただいた「学会誌編集委員会」「学会賞審査委員会」の先生方にはこの場を借りて改めて御礼申し上げます。さらには、将来の会員増のために非会員のフォーラム等への参加を認めるよう「会則」を改定しました。また、参事の先生方の学会活動を支援するための予算化を進めてきました。

2年目は、国内外の関連機関との提携および交流を促進するための「共催に関する規程」、ロゴマークを浸透させるための「日本管理会計学会ロゴマーク使用基準」を制定しました。また、会員の研究活動の支援を充実するために「スタディ・グループ規程」を改正しました。さらには、1年目から「実務家交流委員会」の先生方に検討していただいていた会員、とくに賛助会員の増加について、委員会の先生方のご尽力により賛助会員が7社

から12社へと増加しました。この場を借りて「実務家交流委員会」の先生方に御礼申し上げます。

次年度は最終年度であり、中期を含めた短期目標として各種規程の更なる見直し、また「研究倫理綱領」の制定、実務家の研究支援のための「学会賞」の新設ならびに改定、一部改称、学会の社団法人化などを会員の皆様に諮りたいと考えています。また、就任当初より中期目標として掲げていた会員、とくに賛助会員の増加について、引き続き「実務家交流委員会」を中心に進めていきたいと考えています。さらには、産学連携による地域経済の発展への貢献を促進し、また「管理会計の日」の普及を目指して渋沢栄一氏関連の企業を含め各種団体との連携を図りたいと考えています。

さて、昨年11月14日(木)にCIMA会長のSimon Bittlestone氏とお会いし、意見交換しました。今後も協力関係を深めていくことで合意しました。そのさい、同氏から『Global Management Accounting Principles 2nd edition』を新たに公刊したので、その翻訳をお願いしたいとの申し出があり、旧版を本学会で翻訳した経緯があることから、お引き受けしました。2025年度の事業計画に含めたいと考えています。

残任期間が1年となりましたが、管理会計の理論と実務の幅広い普及と定着を目指し、日本管理会計学会がより魅力があり社会的に信頼される学会に発展するよう、全身全霊をかけて取り組む所存です。会員の先生方の一層のご支援、ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

2024年度年次全国大会記

中央大学 妹尾 剛好

日本管理会計学会2024年度年次全国大会(委員長:中央大学 渡辺岳夫氏)が、2024年9月2日(月)から4日(水)までの3日間にわたって、中央大学茗荷谷キャンパスにて対面形式で開催された。参加者は233名であり、大会期間中は活発な交流が図られた。

◎ 大会1日目

2日は、常務理事会、理事会および各種委員会が開催さ

れた。

◎ 大会2日目

3日は午前5会場で計20題の自由論題報告が行われた。午後は、会員総会、特別講演、スタディ・グループ中間報告、産学共同研究グループ中間報告、統一論題報告、会員懇親会が開催された。

昼食後に行われた会員総会では、大会実行委員長挨拶

撈、会長挨拶のあと、審議事項として、昨年度の事業報告、昨年度の収支決算書（案）、監査報告、今年度の事業計画（案）、今年度の収支予算書（案）、ロゴマーク使用規程（案）等について、審議・承認された。

報告事項として2025年度の年次全国大会は、8月29日（金）から31日（日）の予定で甲南大学にて開催されることが報告された。また、会員の異動、スタディ・グループ、学会誌『管理会計学』の発行状況と今後の方向性等が報告された。

最後に、学会賞審査報告ならびに表彰式が執り行われた。受賞者は以下のとおりである。

【学会賞】

- ・特別賞：該当なし
- ・功績賞：青木雅明氏（公認会計士・監査審査会）、河合久氏（中央大学）、成田博氏（高千穂大学）、本橋正美氏（明治大学）、吉村聡氏（流通経済大学）
- ・文献賞：浅田拓史氏（大阪経済大学）『自律創造型コントロールの理論と実践』中央経済社
- ・論文賞：該当なし
- ・奨励賞：該当なし

特別講演では、渡辺岳夫氏（中央大学）の司会のもと、元リクルート執行役員・前Jリーグチェアマン・現日本バドミントン協会会長の村井満氏が「先の見えない時代をどう生きるかー透明性を高める天日干し経営ー」というテーマで、管理会計とも密接に関連する、隠し事をしない、失敗を恐れない「天日干し経営」の重要性について講演された。

村井氏はご自身が先の見えない時代だったという、リクルートでの人事部長時代やサッカー「素人」で就任したJリーグチェアマン時代の経験を踏まえ、「模倣からの超越＝自分らしく生きる」こと、すなわち、「始動力」が重要であると感じられた。

村井氏は「始動力」をはじめ、それを発揮するための取り組みなどを記述した色紙を毎週1枚用意して、朝礼を開いたという。その中で、「緊張する方を選ぶ」、「早く×速く」、「関係性の質」、「PDM（ミス）CA」といった言葉について、サッカー日本代表監督との交流などの事例とともに詳しく説明いただいた。

日本バドミントン協会会長就任以降に着手した会計面の改革についてもご説明いただき、不確実な環境における管理会計を考えるヒントにもなる素晴らしい講演となった。

特別講演後、スタディ・グループの中間報告として、「生産性を向上するサステナブル・プロフィット・マネジメント」（研究代表者：東洋大学 吉岡勉氏）ならびに産学共同研究グループの中間報告として、「ワイズ・ガバナンス。ー行政管理会計等の新展開ー」（研究代表者：東京大学大学院 大西淳也氏）の報告が行われた。

その後、統一論題報告が行われた。今年度の統一論題のテーマは、「AI時代の会計教育と管理会計実務」（座長：中央大学 潮清孝氏）である。最初に座長の潮氏から解題がなされた。

まず、多様なAI技術とその整理がなされ、「狭いAI」から「広いAI」へ、multimodal foundation modelの登場の説明がなされた。そのうえで、会計実務・教育上の課題として、「機密情報管理と十分な学習データ確保の両立」、「経営・会計情報、判断のblack box化をどこまで受け入れるべきか？（会計人材として必要な能力とは何か？）」という点が指摘され、それらの検討を統一論題の狙いとし、討論していくことが提起された。

第1報告は、林尚史氏（ソニーグループ株式会社）から「ソニー経理におけるDX活用の事例と挑戦」というテーマで報告された。まず、ソニー経理の組織や仕事が紹介された。つぎに、Alteryxというアナリティクス自動化ツールなど、DX活用事例が説明された。さらに、デジタルスキル・アナリティクススキルの強化の実施など、デジタル人材の育成の取り組みも紹介された。最後に、次世代の自動化を実現・進化させるためのソニーの4つの挑戦が示された。

第2報告は、上野雄史氏（静岡県立大学）から「AI・DX時代における会計データサイエンス教育：その必要性と課題」というテーマで報告された。その内容は、「AI・DX時代に職の在り方がどのように変わろうとしているのか？」、「その中で会計専門職の在り方もどのように変わろうとしているのか？」、「会計データサイエンス教育の重要性とその課題」の3点であり、これらについて、自身らのものも含む、さまざまな研究や事例が紹介された。

第3報告は、堀井悟志氏（立命館大学）から「日本企業におけるデジタル技術の活用と管理会計の変化」というテーマで報告された。まず、なぜデジタル技術に注目するのかという導入を示し、デジタル技術の活用に関する管理会計研究の動向を整理された。つぎに、日本企業（製造業）におけるAIの導入実態を自身らが実施したアンケート調査により明らかにし、管理会計に影響するデータ分析に関するケーススタディの結果も示された。最後に、デジタル技術の活用によって管理会計はどのように変わるのかについて、示唆が示された。

大会2日目の最後に会員懇親会が地下1階食堂にて開催され、豪華な料理とアルコールなどが振る舞われた。

◎ 大会3日目

午前中に5会場で18題の自由論題報告が行われた。午後はスタディ・グループの最終報告として、「クライシス時のマネジメント・コントロールーコロナ禍で管理会計はどのような役割を果たしたのかー」（研究代表者：神戸大学 三矢裕氏）および「経営者報酬を利用した経営者の業績評価に関する理論的・実証的研究」（研究代表者：関西学院大学 濱村純平氏）の2件の報告が行われた。

その後、統一論題討論が行われた。討論では、座長の潮清孝氏（中央大学）のコーディネートのもとの、3名の報告者と参加者との活発な質疑応答が行われた。さまざまな視点からAI時代の会計教育と管理会計実務について白熱した議論が行われ、盛況のうちに2024年度年次全国大会が終了した。

2025年度年次全国大会 開催ご挨拶

大会実行委員長 甲南大学 杉山 善浩

日本管理会計学会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

このたび、2025年度年次全国大会が、8月29日（金）～8月31日（日）の日程で、甲南大学岡本キャンパス（神戸市東灘区岡本8丁目9番1号）において開催されることになりました。以下にご案内の「日本管理会計学会2025年度年次全国大会スケジュール予定」にもとづき、対面形式による大会開催で準備を進めております。なお、開催会場の岡本キャンパスへのアクセスは、阪急「岡本」駅より徒歩約10分またはJR「摂津本山」駅より徒歩約12分となっています。会員の皆様には快適にお過ごしいただければ幸いに存じます。

統一論題のテーマは、「定量的な分析技術が管理会計

研究にもたらすもの一展望と示唆」です。また、スタディ・グループ報告および産学共同研究グループ報告が予定されております。

今大会の特別講演といたしまして、江崎グリコ株式会社 代表取締役会長の江崎勝久氏の講演開催が決定しております。

自由論題の募集につきましては、2025年2月に会員各位にご案内し、詳細の大会プログラムは7月に郵送させていただきます。予定です。

大会準備委員会一同、万全の準備を進める所存でございます。多くの会員の皆様のご参加を賜りますようお願い申し上げます。

日本管理会計学会2025年度年次全国大会スケジュール予定 会場：甲南大学岡本キャンパス

【大会1日目】

8月29日（金）

14:00～15:20 常務理事会
15:30～16:50 理事会
17:00～18:00 各種委員会

【大会2日目】

8月30日（土）

9:00～17:00 受付
9:30～11:50 自由論題報告（1） 報告25分、質疑5分
11:50～12:40 昼食休憩
12:40～13:50 会員総会
14:00～15:00 特別講演
講演者：江崎勝久氏（江崎グリコ株式会社 代表取締役会長）
江崎グリコ株式会社は強いブランド力をもつロングセラー商品を数多く製造・販売しています。こうした同社の強みを中心にお話いただく予定です。
15:10～16:25 スタディ・グループ中間報告 報告25分、質疑10分

第1報告：研究代表者 窪田祐一氏（南山大学）

「テンションのバランスをとるマネジメント・コントロールに関する研究」

第2報告：研究代表者 水野一郎氏（関西大学）

「管理会計の先駆者としての渋沢栄一の研究」

16:35～18:15 統一論題報告 解題10分、報告30分

統一論題テーマ

「定量的な分析技術が管理会計研究にもたらすもの一展望と示唆」

統一論題の趣旨

近年の管理会計研究における最も大きな変化は、定量的な研究技術の普及にある。事実、伝統的な質問票調査に加え、企業が開示した財務データや文字情報を用いる研究は今や珍しくない。さらに、実験に基づく研究も現実に行われている。こうした定量的な研究技術の普及は管理会計研究に何をもたらすのか、何を可能にするのかについての展望を統一論題で議論したい。さらに、定量的な研究技術の普及によって、ケーススタディに代表される定性的研究の役割や有効性も一層明確になるはずである。このため、統一論題の副題を「一展望と示唆」とし、定量的な研究技術に光を当てつつ、管理会計研究の可能性について学会の関心を高めていきたい。

座長：安酸建二氏（近畿大学）

第1報告：岩澤佳太氏（東京理科大学）

「質問票調査は終わったのか？：管理会計研究にもたらしたものと限界と可能性」

第2報告：澤田雄介氏（同志社大学）

「なぜ実験は流行らないのか？：管理会計研究における実験の現状と未来」

第3報告：小笠原亨氏（甲南大学）

「アーカイバルデータは管理会計研究にとって有益か？」

18：30～20：00 会員懇親会（甲南大学岡本キャンパスHirao Dining Hall）

【大会3日目】

8月31日（日）

9：00～11：30 受付

9：30～11：50 自由論題報告（2） 報告25分，質疑5分

11：50～12：40 昼食休憩

12：40～13：15 スタディ・グループ最終報告 報告25分，質疑10分

研究代表者 吉岡勉氏（東洋大学）

「生産性を向上するサステナブル・プロフィット・マネジメント」

13：20～13：55 産学共同研究グループ最終報告 報告25分，質疑10分

研究代表者 大西淳也氏（津田塾大学兼東京大学大学院）

「ワイズ・ガバナンス。—行政管理会計等の新展開—」

14：05～15：25 統一論題討論

座長：安酸建二氏

報告者：岩澤佳太氏，澤田雄介氏，小笠原亨氏

15：30 大会日程終了

2025年度の選挙に関連した、会員情報の更新・ 会員種類の変更・学会費納入に関するお願い

副会長（総務・広報担当） 青山学院大学 内山 哲彦

日本管理会計学会会員の皆様には、日頃より、総務ならびに広報の活動にご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

2025年度には、「学会会則」および「役員選任規程」に基づいて、会長および理事の選挙が予定されています。

まずは、選挙に関する連絡が行われるよう、お住まいやお務め先の住所、メールアドレスなど、会員情報の変更がございます場合には、出来るだけ速やかに学会事務局までお知らせいただきますようお願いいたします。

「役員選任規程」および「学会役員選挙実施内規」の定めにより、選挙における選挙権および被選挙権は正会員にのみ付与されます。また、選挙は年次全国大会開催時にあわせて電子投票システムによって行われ、選挙権者および被選挙権者は、年次全国大会開催の2か月前に確定されます。その際、一定年度連続して会費を滞納して

いる方は除外されます。さらに、投票権は年次全国大会参加者に限られます。このため、例年のスケジュールでは、2025年度第1回常務理事会（第1回フォーラム時）までに承認された入会および会員種類変更をもって、選挙権者および被選挙権者が決まります。学会ホームページにてお知らせしていますように、入会申込書、会員種類変更申込書は、常務理事会開催日の2週間前までに事務局に到着するようお願いしております（学会ホームページの「入会案内等」のページをご覧ください）。年次全国大会開催時に実施される選挙ですが、選挙権者・被選挙権者となるためには、早めの申し込み手続きが必要となりますのでご注意ください。

あわせて、滞滞のない学会費納入もお願いいたします。

会員の皆様のご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

学会業務日誌

2024年4月20(土)

▼第1回常務理事会開催(神奈川大学)

▼第1回理事会開催(神奈川大学)

- ◆ 2023年度の事業報告が承認されました。
- ◆ 2024年度の方針および事業計画(案)が承認されました。
- ◆ 共催に関する規程が承認されました。
- ◆ 会員増加の方策が示されるとともに、詳しくは次回の常務理事会の議題とすることが説明され、承認されました。
- ◆ 入会4名(正会員3名・準会員1名)、退会11名(正会員10名・準会員1名)が承認されました。
- ◆ 学会誌『管理会計学』の発行状況について報告がありました。
- ◆ 2024年度年次全国大会の準備状況について報告がありました。
- ◆ 2024年度第2回国際学会参加費の助成について報告がありました。
- ◆ 2024年度スタディ・グループの公募について報告がありました。
- ◆ 学会賞候補者の募集について報告がありました。
- ◆ Facebookの運営と活用について報告がありました。

2024年6月29(土)

▼第2回常務理事会開催(神戸大学)

- ◆ 2023年度の収支決算書(案)および監査報告が承認されました。
- ◆ 2024年度事業計画(案)が承認されました。
- ◆ 2024年度収支予算(案)が承認されました。
- ◆ 学会賞(特別賞・功績賞)について承認されました。
- ◆ 日本管理会計学会ロゴマーク使用基準(案)について説明がなされ、今後の理事会、常務理事会、総会で引き続き審議されることになりました。
- ◆ 会員数増加施策について実務家交流委員会より提案がなされ、また崎会長より、賛助会員の会費について3口以上とする提案がなされ、承認されました。
- ◆ 入会14名(正会員3名・準会員7名・賛助会員4社)、会員種類変更4名(準会員から正会員4名)、退会7名(正会員7名)が承認されました。
- ◆ 2024年度年次全国大会の準備状況について報告がありました。
- ◆ 2025年度年次全国大会の開催校について報告がありました。

2024年9月2(月)

▼第3回常務理事会開催(中央大学)

▼第2回理事会開催(中央大学)

- ◆ 2024年度会員総会次第が承認されました。
- ◆ 2023年度収支決算書(案)および監査報告書が承認されました。
- ◆ 2024年度方針および事業計画(案)が承認されました。
- ◆ 2024年度収支予算書(案)が承認されました。
- ◆ ロゴマーク使用規程およびロゴマークの商標登録進

捗状況が説明され、承認されました。

- ◆ 学会賞(論文賞・文献賞・奨励賞)について承認されました。
- ◆ スタディ・グループ規程の改正について承認されました。
- ◆ スタディ・グループの選考について説明がなされ、承認されました。
- ◆ 2024年度第2回国際会議参加経費の助成について承認されました。
- ◆ 入会3名(正会員1名・準会員1名・賛助会員1社)、退会10名(正会員10名)が承認されました。あわせて、来年度の選挙に向けて、会員情報の速やかな更新への協力の依頼がありました。
- ◆ 会員数増加策について本常務理事会で提案・審議予定とされていたが、未だ提案内容が確定していないことから本常務理事会での提案は差し控える旨の説明がなされ、様々な企業との連携を強化するために、学会の負担において、学会ロゴマーク入り名刺を作成することが提案され、承認されました。
- ◆ 2024年度年次全国大会の準備状況について報告がありました。
- ◆ 2025年度年次全国大会の開催校と日程について報告がありました。
- ◆ 2025年度京都管理会計研究会との共催について内外コラボレーション委員会で承認されたことについて報告がありました。
- ◆ 2025年度第1回国際会議参加経費の助成の公募開始について報告がありました。
- ◆ 崎会長より、会員増加策に関して説明と依頼がなされました。
- ◆ 地方部会、企業研究会の活動状況について報告がありました。
- ◆ フォーラム、リサーチセミナーの活動状況について報告がありました。
- ◆ 学会誌『管理会計学』の発行状況と今後の方向性について報告がありました。

2024年11月30(土)

▼第4回常務理事会開催(流通経済大学)

- ◆ スタディ・グループ研究の会計報告について承認されました。
- ◆ 実務家交流委員会より、実務家との交流促進について提案がなされ、次回の常務理事会において引き続き検討することが承認されました。
- ◆ 入会3名(正会員2名・準会員1名)、会員種類変更1名(準会員から正会員1名)、退会1名(正会員1名)が承認されました。
- ◆ 地方部会、企業研究会の活動状況について報告がありました。
- ◆ フォーラム、リサーチセミナーの活動状況について報告がありました。
- ◆ 学会誌『管理会計学』の発行状況と今後の方向性について報告がありました。
- ◆ CIMA会長との懇談について報告がありました。

会員数の推移

- 第1回常務理事会（2024.4.20）：入会4名（正会員3名・準会員1名），退会11名（正会員10名・準会員1名），会員現員数は674会員（正会員:588名，準会員:68名，賛助会員:7社，特別会員:11名）
- 第2回常務理事会（2024.6.29）：入会14名（正会員3名・準会員7名・賛助会員4社），会員種類変更4名（準会員から正会員4名），退会7名（正会員7名），会員現員数は681会員（正会員:588名，準会員:71名，賛助会員:11社，特別会員:11名）
- 第3回常務理事会（2024.9.2）：入会3名（正会員1名・準会員1名・賛助会員1社），退会10名（正会員10名），会員現員数は674会員（正会員:579名，準会員:72名，賛助会員:12社，特別会員:11名）
- 第4回常務理事会（2024.11.30）：入会3名（正会員2名・準会員1名），会員種類変更1名（準会員から正会員1名），退会1名（正会員1名），会員現員数は676会員（正会員:581名，準会員:72名，賛助会員:12社，特別会員:11名）

事務局からのお知らせ

○フォーラムやリサーチセミナーの案内等，会員宛の連絡にeメールを活用しています。メールアドレスを未登録の方は，学会ホームページよりご変更ください。また，すでに登録されている方で，案内等が届かない，あるいは，メールアドレスに変更があった場合には，速やかに学会事務局までご連絡ください。

日本管理会計学会広報 責任者：内山 哲彦
メンバー：奥 倫陽，原 慎之介
発行機関：日本管理会計学会
《本部事務局》 〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5
アカデミーセンター（株）国際文献社内
日本管理会計学会 事務局
【ホームページURL】 <https://sitejama.jp/>
【E-mail】 jama-post@bunken.co.jp
【TEL】 03-6824-9371 【FAX】 03-5227-8631
【Facebook】 <https://www.facebook.com/sitejama/>